

愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第 22 弾

選定作家：

船橋 淳（ふなはし あつし／1974 年大阪生まれ）

東京大学教養学部表象文化論分科卒業後、ニューヨーク、スクール・オブ・ビジュアル・アーツで映画プログラムを学ぶ。デビュー作の『echoes』（2001 年）は、「東京国際映画祭」「ミュンヘン国際映画祭」「カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭」などに招待され、「アノネー国際映画祭」（仏）で審査員特別賞と観客賞を受賞。

第二作『Big River』（2006 年、主演：オダギリジョー）は、「ベルリン国際映画祭」「釜山国際映画祭」でプレミア上映された。劇映画と並行してドキュメンタリーも手掛け、『人生を楽しみたい ～アルツハイマー病への取り組み～』（2005 年、NHK）は、米「テリー賞」シルバーアワードを受賞。「ベルリン国際映画祭」フォーラム部門に招待された『谷中暮色』（2009 年）は、劇映画であるが、対象となる谷中の地の綿密な調査に基づいた、ドキュメンタリーの側面も併せ持つ、ある種の実験的色彩のある作品だった。初の劇場用ドキュメンタリー『フタバから遠く離れて』（2012 年）は、東日本大震災で町全体が避難を余儀なくされた、福島県双葉町とその住民を長期に渡って取材した作品で、数多く作られた被災地に関する作品の中でも、一、二を争う高評価を得る。2013 年に公開が予定されている、最新作の劇映画『桜並木の満開の下で』でも被災地を舞台にしており、ジャンルを越えた一貫性を示している。

作家選定委員

天野 一夫（美術評論家、豊田市美術館チーフキュレーター）

岡村 恵子（恵比寿映像祭ディレクター、東京都写真美術館学芸員）

北小路隆志（映画評論家、東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員、
京都造形芸術大学准教授）

酒井 健宏（映画研究家、名古屋学芸大学非常勤講師）

越後谷卓司（愛知県文化情報センター主任学芸員）